

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

October 2018 vol.54

October						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

◆ 下原大池改修記念碑

所在地：春日井市西山町

交通：JR 中央線「神領」駅 北西 約 3.5km

明治 24 (1891) 年 10 月 28 日に発生した濃尾地震は、岐阜県本巣郡の根尾谷断層などが活動したことにより引き起こされた地震で、これまでに日本で発生した内陸活断層型地震としては最大級の地震であり、愛知県、岐阜県を中心に、死者 7,273 名、負傷者 17,175 名、家屋全壊 142,177 戸、半壊 80,324 戸の被害を出しました。

愛知県における被害は震源に近い県西部でひどく、被害の中心を外れた東春日井郡に位置する春日井市では、春日井市史によれば死者 4 名、負傷者 18 名、民家全壊 213 戸、半壊 553 戸にとどまっていますが、市には新田開発が進んだ江戸時代の頃からため池が多く造られており、これらのため池の多くが被害を受けました。

被害を受けたため池のひとつが下原町の太池です。太池は下原や八幡（太池の南側の地区）の新田に水を供給するために江戸時代前期に整備されたため池でしたが、濃尾地震により堤防が大きな被害を受け、流出した池の水により浸水があったとされています。（当時の浸水範囲は不明ですが、春日井市ため池ハザードマップ・下原大池浸水想定図（<http://www.city.kasugai.lg.jp/shisei/1009248/nougyo/1009335.html>）を見るとイメージができます。また、東日本大震災では福島県の藤沼ダムが決壊し、流出した多量の水が下流域の集落を襲い、死者 7 名、行方不明者 1 名、家屋損壊 124 戸の被害をもたらしています。）

地震の後、下原村と八幡村の 2 村で、国からの救済金も受けながら進められた復旧工事は、翌明治 25 年 2 月に始まり、延べ 63,000 人余りの労力と多額の費用を費やし、半年かけて、明治 25 年 8 月に完成しました。下原大池改修記念碑は、このときの堤防の復旧工事を記念した碑で、下原村長と八幡村長が建碑共同員になっています。

春日井市にはそのほかにも、濃尾地震に関連した記録の残る、水利施設の改修記念碑がいくつか残されています。東野町の落合池にある落合池改修記念碑の案内板には、濃尾地震で壊れた堤防の復旧工事が行われた旨が記されています。大泉寺町の鉢池の鉢池改修記念碑には、濃尾地震によって池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことが記されています。高蔵寺の新池公園にある用水改修碑には、濃尾地震で諸村の水利被害が甚大であり、救済を受けて復旧したことに感謝の意を込めて、このことを碑に残す旨が記されています。なお、鉢池改修記念碑と新池公園の用水改修碑の碑文は、いずれも愛知県参事会員で衆議院議員も務めた堀尾茂助によるものです。

地震によって被害を受けた施設の改修には、当時も国庫からの補助がありました。濃尾地震における愛知県への土木費等に対する国庫補助は、2 回にわたる勅令により約 190 万円（現在の 100 億円～400 億円程度）が支弁されています。



現在の太池（碑の位置は不明）



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆下原大池改修記念碑の周辺には…

● 東野八幡社

所在地：春日井市東野町

交通：JR 中央線「神領」駅 北西 約 2.5km

濃尾地震で被災し田畑を失うなどした東春日井郡の住民の一部は、新たな生活の基盤を求めて、当時政府が団体移住を奨励していた北海道の生振原野に集団移転します。春日井市東野町にある八幡社の鳥居には、濃尾地震をきっかけとして移転した9名の名前が「北海道移住者」として刻まれています。

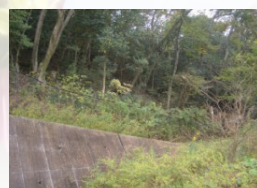


● ひろくてじゅうはちごうかまあと ● 広久手一八号窯跡

所在地：瀬戸市吉野町

交通：愛知環状鉄道「山口」駅 南東 約 1.7km

瀬戸市の基幹産業である窯業も地震の被害を受けています。瀬戸市史によれば、広久手一八号窯跡には地震によって生じた地滑りが発掘によって確認されました。（現在では埋め戻されており、直接確認することはできません。）



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 春日井まつり

春日井まつりは、春日井市役所周辺の会場で「書のまち春日井」にちなんだ様々なイベントが催される秋の春日井の風物詩で、昭和52年から毎年開催されています。（平成30年は10月19日から21日）

期間中は、大きな紙に音楽に合わせてパフォーマンスをしながら揮毫する書道パフォーマンス大会「Kasugai ザ 道風」や、小野道風、藤原行成、藤原佐理の三跡や小野小町などがパレードコースを練り歩く「道風平安朝行列」などが催され、会場には飲食ブースも並びます。



春日井まつり実行委員会 HP より

また、開催期間中にスタンプラリーも行われており、ゴールすると春日井まつりオリジナルのペーパーウエイトやクリアファイルなどがもらえます。

今年度は10月19日の前夜祭で、山崎まさよしさんのライブも開催されます。

10月のあいちの花

平成30年10月のあいちの花はピンポンマムです。ピンポンマムは、ポットマムが改良されたオランダ生まれの品種で、花の付け根までびっしりと小さな花が咲き、丸くてかわいらしい花姿になります。



HORTI HP より

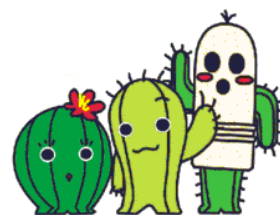
和風にも洋風にもアレンジでき、白、赤、ピンク、オレンジ、黄、緑、褐色など、花の色がたくさんあって使い勝手が良いことから、花束やアレンジメントに用いられます。小さな花が集まって咲く様子から、「高貴」「真実」という花言葉がつけられています。

● ブレイクタイム ●

♪ 春日井サボテン

春日井市はサボテンの実生栽培（苗生産）が日本一です。春日井市のサボテンは昭和28年頃に果樹栽培の副業として栽培が始まりますが、昭和34年の伊勢湾台風で果樹が壊滅状態となったことがきっかけでサボテンの栽培にシフトし、現在の日本一の生産につながっています。

素材としてのサボテンだけでなく、加工品製造、特に食材としてのサボテンの製造が盛んで、市内には、サボテンステーキやサボテンラーメンなどが食べられるお店があります。このほかにもサボテンのアイスやサボテンういろうなど、サボテンにちなんだお土産も多数あります。



春日井サボテンイメージキャラクター
（左から）春代・日丸・井之介

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成30年10月）